

多世代が銀牙に興奮 石ノ森記念館で特別企画展

石ノ森章太郎ふるさと記念館特別企画展「高橋よしひろ 銀牙－流れ星銀－の世界展」の開催に合わせ、7月20日に高橋よしひろさんのサイン会が開かれ、350人以上の応募の中から選ばれた50人が参加しました。

企画展では、日本のみならず海外でも支持を集めている本作品の迫力ある原画の数々を多数展示。サイン会当日には、作者に一目会おうと、幅広い世代のファンが詰めかけました。サイン会に当選した石川理美さん＝栃木県＝は「幼稚園の時にビデオを借りて見ていました。仲間たちとの友情や絆に子どもながらに感動していたので、うれしかったです」と笑顔を見せました。



来場者は、作品への思いを語り合いながら順番を待ち、サインをもらった後は、高橋よしひろさんと記念撮影していました。

夢をかなえる第一歩 市内企業が集まり説明会

「登米市就職ガイダンス」が7月2日、エスビー食品とよま蔵ジヤムで開かれ、48の企業・団体と市内外の高校生や大学生、一般求職者など約400人が参加しました。

就職ガイダンスは、市内企業への理解を深めてもらい、優秀な人材の確保や若者の就職支援、定住促進を目的に開催。及川日海翔さん＝佐沼高3年＝は「市内での就職を希望しているので参加しました。説明を聞いて、夢をかなえるために今やるべきことが明確になったので、もっと緊張感を持って勉強に取り組んでいきたいと感じました」と将来の夢に向かって意欲を新たにしていました。



参加者は、企業の担当者から仕事の内容や魅力について説明を受け、熱心にメモを取りながら将来について考えていました。

中学生が考える未来 地球温暖化について学ぶ

「ゼロカーボンシティとめジュニアミーティング」が7月22日、中田農村環境改善センターで開催され、市内の中学生29人が参加しました。

ジュニアミーティングは、2050年カーボンニュートラル実現のため、次世代を担う子どもたちの関心と理解を深めていくことを目的に開催。宮城教育大学教授の棟方有宗さんによる記念講演の後、グループに分かれて意見を出し合いました。千葉琉希弥さん＝中田中3年＝は「改めて地球温暖化のことを考える機会になりました。今後は家のエアコンの設定温度を下げすぎないように気を付けたいと思います」と話しました。



参加した学生たちは、グループで意見を交わしながら、地球温暖化や未来のために自分たちにできることを考えていました。

地域守る心意気示す 登米市消防団演習を開催

「令和8年度登米市消防団演習」が7月5日、長沼フートピアトヨテツの丘公園で実施され、市内9支団から約500人の団員が参加しました。

演習は、消防団員の技術向上と士気高揚を目的に開催。通常点検や機械器具点検、女性分団の軽可搬ポンプ操法訓練、代表3支団による小型ポンプ操法などが実施され、団員らは日頃の訓練の成果を披露しました。小型ポンプ操法で優勝した米山支団の佐々木昭彦班長は「指導者や先輩たちのアドバイスのおかげで1位を獲得できました。今後も消防技術の向上に努め、地域防災に貢献していきたいです」と話していました。



演習の締めくくりには、参加した団員全員による分列行進を実施。地域の安全・安心を守る決意を胸に、力強く行進しました。

家族で挑戦木琴作り 市内産材使った木工体験

「登米の森ワークショップ親子木工教室」が7月25日、石森ふれあいセンターで開かれ、市内外から集まった小中学生とその保護者45人が参加しました。

教室では、登米町森林組合で実務実習中の高橋心月さん＝東北農林専門職大2年＝が講師となり、市内産材を使った木琴作りを体験。同森林組合の竹中雅治さんによる木や森についての講話もあり、参加者は楽しみながら森林の大切さを学びました。佐藤依菜さん（7）＝迫町内町＝は「木に糸を通してつなげるのが大変だったけど楽しかったです。これから家で大切に使っていきます」と満面の笑みで話していました。



1本ずつ音を確認めながら、音階順に並べる参加者。最後は全員で「きらきら星」を演奏し、温かな音色が会場に響きました。

商店街に笑顔と活気 みこしとマルシェ六月祭

「六月祭」(同実行委員会主催)が7月19日、一市八日町通り商店街で開かれ、多くの人でにぎわいました。

祭りは、約400年の歴史を持つ「六月祭」の名称を復活させ、地域文化の継承と地域活性化を目的に開催。来場者は、マルシェの出店やステージの音楽などを楽しみながら商店街を散策しました。また、同時開催の「第9回登米市神輿祭」(とめ青年会議所主催)では、4基のみこしが勇ましく練り歩き、沿道から熱い声援が送られました。夕方からは、山車の運行や「宵あかりの参道」と題したろうそくによるライトアップが催され、来場者は幻想的な雰囲気に浸りながら祭りを満喫していました。



地域の歴史と文化を生かした祭りを楽しみに、多くの人が通りを行き交い、会場は終日活気にあふれていました。